

収穫

日本の10月と言えば運動会や紅葉狩りなどのたくさんの行事や催し物が行われる季節であり、また食べ物の美味しい季節でもありますね。

ここカンボジアの農場でも、大きな出来事がいくつかありました。今回はその出来事について、ご報告させていただきます。

10月13日に稲刈りを行いました。稲刈りをした水田は、7月17日にSAJ孤児院「夢追う子どもたちの家」の子どもたちと田植えを行った水田です。

稲刈りを行った今年の水田は、新しく造成し、一ヶ月間床をトラクターで固めた水田ですので、水が漏れず生育が良くなり、昨年と比べて収穫量が多くなりました。

数字に表すと昨年の反当りの収穫量は85kgだったのに対し、今回の作付けでは反当り169kgにまで増やすことができました。その理由として、以下のようなことが考えられます。

- ① 造成後の水田に作付けをしたことで、常に一定の水位で高めの水温を維持出来たこと。
- ② 昨年の苗は40cmほどまで伸ばし30cmほどのところで切りそろえたが、今年は苗を切りそろえなかったため、勢いのある苗を植えつけられたこと。
- ③ 昨年の肥料の量が反当り300kgの散布に対し、今回は1000kgのボカシ肥を散布したこと。

来年の作付けは、今年の実験を活かしさらにたくさんの収穫ができるようにしたいと思います。

稲の収穫が終わると、SAJ 秋季教育支援視察ツアー一行が3回に分かれて来場されました。初めて参加される方、すでに何回もカンボジアを訪れ、私達の活動を応援していただいている方、ワタミインターナショナルの方々など、大賑わいのツアーとなりました。私達にとってこれほど嬉しいことはありません。しかし、せっかく農場まで足を運んでいただいたお客様に農場に入っていくことができずしては、それは、洪水の影響で農場前の道路が冠水してしまっていたからです。そのため、農場の外側から農場の一部を見ていただくだけとなってしまいました。私達のつたない説明をうなずきながら聞いていただき、「また来るから」と言う言葉をかけていただきました。

次回はツアーの参加者様と3月の乾季にお会いすることとなります。その際には農場を歩いていただくこともできると思います。たくさんの方々とお会いできることを楽しみにしています。



スタッフ全員で収穫を行いました。



ワタミインターナショナルの方々
は冠水した道路を裸足で渡って農
場まで来ていただきました。

SAJの渡邊代表理事、ワタミ手づくりマーチャンドアイジング(株)の門司社長、(有)ワタミファームの磯野社長にも農場を視察して頂き、SAJFarmの現状とこれからのことについてお話をし、主に次のようなことについてお話をしました。

区画ごとに農場の地図を作ることが必要となっており、そこには耕起する際のトラクターの方向、農場の凸凹加減、生育の状態、土の状態などを書き込む必要があります。

ニワトリは羽数を増やし、運動場をさらに広げます。そして、運動場には刈り取った草を敷きます。こうすることによってニワトリが栄養分のある土を作ってくれます。

加工のできる作物ですが、今のところトウガラシとレモングラスの栽培を始めました。コショウやその他のハーブ類も試験栽培もしたいと思っています。

水の管理に関しては、農場前の道路の排水と、用水路を作ることを考えています。

今年の東南アジア諸国では大変降雨量が多く、皆様もニュースなどで洪水の影響についてはご存知のことと思います。特にタイ王国の首都バンコクでは、深刻な被害となっています。ここカンボジアでも、水による被害がありましたし、私達の農場でも少なからず影響がありました。

影響の1つとして、私たちが造成を行ったことで地域の水の道が変わってしまい、その結果農場前の道路が冠水してしまい、近隣から苦情が届いています。こちらの苦情に関しては、地元の方に相談を始めました。

2つ目に、造成後間もないことから、土が柔らかく、短い時間とはいえ一度に多量に降る雨のせいで決壊してしまった箇所が多数あることです。

修復が必要な箇所に関しては、スタッフ全員で土のうを積み上げています。乾季になりましたら業者に修復を依頼しようと考えています。

昨年多少なりとも収穫の出来た川沿いの水田が、完全に水没してしまいました。今年は全く収穫が見込めなくなってしまうことも問題として残ります。来年は、作付け時期を変えることや品種を変えるなどを行い、同じようなことを繰り返さないようにしていきたいと考えています。

皆様にはご心配ばかりおかけしているSAJFarmですが、幸いにも、スタッフ一同大きな怪我や病気などにかかることなく毎日を過ごしています。



上は川沿いの水田 10月上旬、下は10月中旬の様子です。水田一面冠水し、稲も沈んでしまいました。



この写真は、今回苦情の対象となっている農場柵の外側の道路です。冠水し湖のようでした。

編集後記

今年はお伝えしたように雨の多い年でした。しかしカンボジアの農業省では来年も雨の多い年になると予測をしているようです。現地スタッフにそのことを伝えると面白い答えが返ってきました。「辰年」は雨が多い年なんだよ」とのこと。農業は水の管理ができるか否かで作物の状態が大きく変化します。

今から対策をたて万全の状態到来年を迎えたいものです。(飯島)